

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100394		
法人名	医療法人 レザレクト		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	〒781-5232 高知県香南市野市町西野1886-3		
自己評価作成日	平成25年8月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と家族・地域との繋がりを大事に思い、行事(文化祭・バザー・ボランティア来所・みかん狩り・クリスマス会)などを開催し交流の場の提供を心がけています。母体は医療機関でもあり、相談や助言をうけ健康管理連携をすすめています。また併設しているデイサービスでのレクリエーション参加などし、それぞれの利用者にとって安心して生活できる場となれるように努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972100394-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972100394-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年10月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田畑が残る住宅地にあり、1ユニット平屋建ての建物は芙蓉の生け垣に囲まれ、民家らしい佇まいを見せている。開設後9年を経過する中で、日常的に地域との交流を続け、住民から気軽に野菜や花などを提供されるなど地域に密着した事業所として定着してきている。職員が自分の飼犬を使って利用者との触れ合いを試みたり、職員の子どもの交流や保育園行事への参加などを通じて、利用者が喜びを感じられるよう取り組みの工夫に努めている。共用スペースの廊下には10数枚の押し花の額が飾られて来訪者の目を引いており、額は季節ごとにボランティアが取り換えてくれたり、事業所主催の文化祭兼バザーにも多くのボランティアの協力が得られるなど厚い支援を受けている。管理者は今年5月の着任であるが、職員の定年退職等により若い職員が増えるなか、職員と一致団結してより良いサービスの提供に努力しており、他の模範になる事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に目に付くところに掲げて、日々の業務中や月3回の職員会では共有できるよう声掛けしながら実践につなげている。	事業所独自の理念を玄関や事務室など、目に触れやすい場所に掲示するとともに、職員会の話し合いのなかで理念の共有を図っている。意欲のある職員が増え、その思いを形にするために理念を見直す動きもあり、職員間で検討を始めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動として年2回の一斉清掃活動への参加、グループホームでの行事(クリスマス会・ボランティア来所・文化祭兼バザー)開催、地域の方による3B体操などを通じて交流している。	町内会に加入し、回覧板や市の広報から地域情報を得て、市の清掃活動などに参加している。近隣からは野菜類の差し入れなどが日常的に行われている。小学生による劇団の訪問があったり、保育園の運動会への参加や、事業所内の行事を通して地域との交流が継続されている。	交流先が固定していることから、さらに多くの人との交流の場を広げたいという職員の思いもあり、事業所からの情報発信や行事を工夫するなど地域交流の新たな取り組みを期待したい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の活動を通じて交流されるなかで、認知症の方に対する理解も深まっている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議参加者よりの意見(事故対策・提案)をいただき、職員会で検討し向上できるようにしている。	運営推進会議では事業所の取り組み状況を、写真なども加えた資料で報告し、参加者からは質問や意見、提案が活発に出されており、意見等を運営に反映している。市の消防署の職員も毎回メンバーとして参加し、防災に関する助言を行っている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や電話連絡にてアドバイスを受けたり、ケアなどの相談を行い協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者には運営推進会議の場で実情を把握してもらっている。市介護課主催のグループホーム情報交換会への参加や、実地指導、電話での相談などを通して、日ごろから協力関係を築くようしている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部勉強会を行う。個別ケースの対応などについては必要に応じて話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は、玄関・個々の居室窓・外部へ通じる扉などの施錠は行っていない。	研修会や職員会等を通して、身体拘束をしないケアの徹底に努めている。ケアにおける言葉遣いについて、身体拘束面から気づいたことを職員間で話し合ったり、外出傾向のある利用者には、家族とリスクについて話し合い、近隣住民やデイサービスの職員等にも見守りの協力を依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部勉強会を通じて周知徹底を行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学ぶ機会を計画している。研修参加した職員により内部研修により他職員に伝達している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約内容や重要事項説明書について、わかりやすい表現説明を行っている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりのなかで、要望・意見を話しやすい雰囲気でき聞き取りながらケアに反映している。 年2回家族会での意見交換も行っている。	利用者には、一緒に手作業などをしながら意見を聞いたり、家族には電話や手紙のほか、来訪時などにできるだけ意見を聞くようにしている。事業所の行事に合わせて年2回家族会を開催しており、行事の後で家族との懇談を持ち、事業の取り組みなどへの意見を聞き運営に活かしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月3回の職員会で、職員同士の意見や提案を個々に行なってもらい、運営者にも参加していただける時などはアドバイスをもらってできている。	職員会には法人の理事も出席し、職員の意見や提案を聞いている。職員構成が若くなっているが、意見は積極的に出され、日々の業務に反映している。自己評価にも全員で取り組むことにより、運営に関する職員の思いが把握できている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、職員の勤務状況・努力や実績を評価し、健康診断実施により心身状況の把握もできている。各研修等は出張扱いとし、一部を除き事業所で負担し職員の向上心を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの中では各職員の得意なことなどを発揮してもらえるような機会を設けている。また研修参加後の報告会を開催し他職員への伝達もできている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	香南市役所介護課主催の地域密着型サービス事業所情報交換会への参加やその他研修参加時の交流を通じてサービス向上に活かしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前面談を行い生活状況(好み・習慣)など、安心していただけるような生活を送ってもらえるように職員と馴染みの関係を築けるように把握し関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談や施設見学時では、今の生活での不安なことを聞くことによって、安心した生活が行えるような支援へとつなげている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を聞くうえで、行うべき支援を検討し、可能な限り対応できるように他職種とも相談し実施に努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活の中で一緒にできることを探しながら行い、本人と職員が共に支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各行事への参加の呼びかけや、毎月、キーパーソンの家族には日々の生活を撮影した写真入りのお便りにコメントを記入しお知らせをしている。またその他の家族には年に2回写真を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所だった人や友人の来所や電話での交流ができるように支援をしている。誕生日会などの参加を友人の方にもして支援に努めている。	利用者の誕生日会に、入居前に近所だった人を招いて実家の様子を話してもらったり、以前通所していた隣接のデイサービスの体操やレクリエーションに参加して、馴染みの人との交流を図っている。また、家族の協力で自宅訪問や墓参り、法事への参加なども行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う同士や同郷の方同士など、ゆっくりくつろげる場の提供を心がけている。職員が話題を提供し利用者同士が会話できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した後の情報を得たりしながら、いつでも相談できる関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、どのような暮らしがしたいかを聞きながら思いの把握に努めている。表現が困難な方は家族から聞くなどし、本人の代弁もしながら思いに添えるようにしている。	日々把握した利用者の思いや希望は、プランの確認評価表、介護計画作成のためのアセスメント表などにその都度記載して計画づくりに反映している。昔のことを聞き取るなかで、把握してなかった趣味が把握できることがあり、そうした情報を活かす取り組みも考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に本人・家族から聞き取りを行っている。介護サービス利用施設や主治医からの情報提供も頂いて暮らしの把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の一日の過ごし方を把握したうえで、個々の日常言動・行動に反映し声掛けし日々の生活の提供に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向をもとに、主治医や医療連携看護などの助言・職員内での意見を取り入れて介護計画を作成し、月1回のモニタリングでズレがないか確認し実施している。	日々のケアや家族との関わりの中で意向を確認し、かかりつけ医や毎日の状況を把握している看護師等の意見も取り入れ、全職員で話し合っって介護計画を作成している。利用者ごとに担当者を決め、月1回モニタリングしながら、特に変化がない限り、3カ月ごとに計画を見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し、注意する点や検討内容は職員間で申し送り・連絡ノートなどで情報共有しケアに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病状に応じた医療機関の受診、美容院の訪問美容、併設のデイサービスの利用を取り入れている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方による3日体操ボランティアや他のボランティアを活用し暮らしを楽しむことができるような支援をしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望医師を受診・往診にて医療支援している。	全員の利用者が希望するかかりつけ医に受診できている。協力医療機関以外をかかりつけ医としている場合や、専門医への受診は、緊急を除いて原則として家族が対応している。協力医療機関以外のかかりつけ医の往診もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師から週1回訪問があり、様子の確認を実施していただけている。また日々の相談を行いながら必要に応じて助言を仰いでいる。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と情報交換を行い、家族からの入院中の様子確認の連絡や面会にいき、情報を得ながら関係性をもっている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状については、常に家族に報告している。事業所での対応可能な範囲は家族にも伝え、医療関係者との相談を行い支援に取り組むようにしている。	重度化への対応指針、看取り介護のマニュアル、終末期にかかる意向確認書等を整備し、入居時に利用者と家族に説明している。ターミナルケアの研修を全職員が受講できるようにし、終末期に事業所での支援が可能か状況を判断できるよう取り組みを進めている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを周知し、内部研修も行っている。応急手当についての研修は2年に1度消防署員より受けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での防災訓練や施設での防災訓練には地域や家族の参加も呼びかけている。災害時の備蓄品も備えており、消費期限の管理もおこなっている。	年2回、隣接のデイサービスと合同で防災訓練を実施し、年1回は地震や夜間を想定した単独の自主訓練を行っている。自主訓練には地域の人も参加している。また最近、地域に自主防災組織ができ、今後の訓練が検討されている。備蓄用品は県のマニュアルを参考に整備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で本人を尊重しながらプライバシーを損ねないように職員同士で対応や言葉かけを注意し合っている。	内部研修で尊厳やプライバシー保護について取り上げ、職員が交代でマニュアルや独自の資料を使って講師を務めることにより、理解を深めている。また、職員会でも、ケアの場面で互いに気づいたことを出し合い、検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表現のなかから本人の思いをくみ取り、自己決定できるように言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の一日の流れもあるが、本人が希望する買い物等の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ洋服は本人に選んでもらっている。選ぶことのできない方は、職員が選び選択し自己決定してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材の食べ方などを利用者に聞きながら、アドバイスをうけながら調理を行っている。利用者の好きな食べ物を提供したり、外からお弁当を注文している。	献立は、地域の人から提供された野菜類や保存している食材を参考に毎日作成している。利用者は、必要な食材の買い出しに同行したり、料理の下ごしらえ、盛り付けなどに参加し、食事には持参した好みの食器を使用したり、食前の口腔体操などで食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェック表により確認把握し、日々の体調に応じた食事形態の工夫もおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行なっている。その人に応じた舌のブラッシング介助や軟膏塗布介助を行なっている。義歯は毎日、夜間洗浄で洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し声かけや誘導支援を行っている。	排泄チェック表に基づき、個々にトイレ誘導を行っている。排泄が自立している利用者にも、時間間隔に留意し声をかけている。利用者の状況や家族の希望も踏まえて、下着や排泄用品を適切に使用しながら支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションでは体をひねったりする運動を取り入れたり、飲食物では牛乳・ヤクルト・ヨーグルト・繊維食品摂取の工夫を行っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴が楽しめるように管理表をもとに声掛けしながら入浴支援をしている。	入浴希望に応じて、朝声をかけておいて、午後の入浴時間に再度声をかけている。一人ずつ入浴し、入浴を嫌う利用者でも少なくとも3日に1回は入浴できるよう支援している。通常の時間帯と異なる入浴希望にも対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操やゲーム、生活の家事を取り入れ昼間を活動的に過ごしてもらうことにより、夜間自然に眠れるように支援している。昼間も本人の体調に応じて休息をとっていただいている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援担当職員は、名前や日付のチェックを確認担当職員と行い服薬支援を行っている。薬の情報は連絡ノートを通じて職員で共有し理解に努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活で本人が習慣としたこと(写経・野菜作り)が続けられるように支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望によって散歩にも付き添いしている。買い物の外出希望がある方には買い物日に声をかけて確認を行なっている。ドライブ外出は2～3グループに日を分けて家族協力を得ながら支援している。	利用者の希望を聞きながら、日常的に散歩や買い物等の外出支援を行っている。ドライブによる遠出は、グループに分かれ、利用者それぞれが少なくとも月1回は外出できるような心がけている。遠出は家族の訪問日に合わせて企画し、家族の協力も得て支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金庫にて預かり保管している。訪問美容や外出時にはできるだけ本人が支払いできるように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人へホームの固定電話を利用したり、毎年の習慣であった年賀状などのやり取りができるように支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の絵画はボランティアの方が定期的に変換してくれて鑑賞展示している。ホールは陽あたりもよく、周囲には花が咲き季節を感じる事ができながら過ごすことができている。	玄関や廊下には絵画や共同で作成した貼り絵などの作品、季節の花等が飾られ、リビングは明るく、大型テレビも壁掛け式で見やすい位置に配置され、居心地に配慮している。食器の音や料理の匂などが利用者に生活感を与えている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽当りのいい場所では椅子に座って井戸端会議をされたり、思い思いに過ごしていただくように椅子を配置している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを自宅から持ってきていただき、自室は居心地よく過ごせるようにそれぞれ本人や家族で工夫されて環境を整えている。	居室はすべて花の名前で統一して、入口にそれぞれの花の写真と利用者を表示して分かりやすくなっている。居室内の物はすべて利用者の持参であり、ベッド、タンス、テレビ等の家具や置物、飾り物などは、家族が協力して配置を工夫している。ベッドを使わず、蒲団のあげおろしを自分で行う利用者もいる。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	布団での生活可能な方には、敷いたり上げたりが行えるように声掛けし、生活が行なえるように支援している。建物内は手摺を設置し、廊下へは転倒要因となる物は置かないようにしており安全を確保している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				